

令和2年度 岐阜県生涯学習・社会教育総合推進会議 開催概要

1 日時・会場

令和2年11月20日（金） 13:20～15:20

各務原市産業文化センター あすかホール ※オンライン併用

2 開催概要

生涯学習・社会教育の推進のため、市町村担当職員や公民館・生涯学習施設職員、地域団体、NPO・ボランティア団体、大学等高等教育機関、民間教育事業者、企業等の代表者を対象に、各主体間の連携を図ることを目的とした総合推進会議を開催しました。

今年度は「地域学校協働活動の推進について～子どもを核とした地域づくり～」をテーマに開催し、日本女子大学の田中雅文教授による講演を実施しました。

3 プログラム

(1) 基調講演「地域学校協働活動の推進について」

【講師】日本女子大学 教授 田中 雅文 氏

I 子どもが社会人として育つために

○子どもが社会人として育つためには「社会人基礎力」を身に付ける必要がある。それは、①「アクション（前に踏み出す力）」、②「シンキング（考え抜く力）」、③「チームワーク（チームで働く力）」である。

○OECD（経済協力開発機構）が策定した「キーコンピテンシー（主要能力）」は、①「相互作用的に道具を用いる力」、②「異質な集団で交流する力」、③「自律的に活動する力」である。インターネットを活用した交流は有効ではあるが、そのメリットを生かしながら対面の交流を行うことが大切である。

○伝統的共同体においては、人とのつながりが強く、個性の尊重度は低い傾向があった。現代消費社会においてはその反対で、個性の尊重度が高くなった一方、人とのつながりは弱くなった。これから「求められる世界」は、つながりの強さと個性尊重が両立する世界である。ボランティア活動や興味のあるテーマで人と人がつながること等が好例である。

○国立青少年教育振興機構が選定した「体験を通じて育てたい12の資質・能力」は、「学ぶ力」「礼儀作法」「やり抜く力」「コミュニケーション力」「健康管理」「自己肯定感」「協働性」「積極性」「道徳観」「自立心」「勤労観」「公共心」である。

○子どもの成長にとって大切なのは、数値化できない「非認知能力」を高めることであるが、それを学校のみで行うことは難しく、地域と学校の連携によって進めることが重要である。

○家庭教育、学校教育、社会教育の三本柱で子どもを育てることが重要であって、子どもは学校だけでは育たない。そのために地域の教育力を高めていく必要があり、子ども達も地域の教育力を高めることに貢献している。

II 地域と学校の協働

○地域学校協働活動は「学校を核とした」と捉えるよりも、「子どもを核とした」と捉えて行うべきで、教育活動とまちづくり活動の融合である。学校側が「活用」するのみでなく、学校と地域がwin-winの関係になるべきである。総合的な学習の時間等を使うことで、学校教育の中で子ども達が地域づくり活動に参加できる。

○東京に「武蔵野の森を育てる会」の植樹活動がある。学校の授業で自分達が植える木について学習し、市民団体の協力のもと実際に植樹の体験活動を行っている。学校だけでも地域だけでも行えず、地域と学校が協働してこそ成り立つ活動である。

○様々な活動を通して子ども達が地域づくりを担う大人として成長することが大切である。子ども達は学校での学習と地域での学習の循環を通して探究的学習を深めることができる。

○地域学校協働活動は地域の大人にとっても効果がある。学校の学習活動に協力することで自身の勉強（子どもとの付き合い方がわかる）になったり、地域の活動者同士のつながりが生まれやすくなる。学校を舞台に地域のつながりが生まれ、それが次の活動を展開できる。

Ⅲ 各地の事例から

○住民主体の「地域教育会議」の機能充実（神奈川県川崎市）

全中学校区に地域で子どもを育てる仕組みが元々あり、この度、地域学校協働本部に位置付けられた。それによって地域のあらゆる教育関係の組織・施設が「地域教育ネットワーク」を形成し、地域学校協働活動を推進している。地域にもともと存在する仕組みを地域学校協働活動に活用している事例である。

○社会教育主事が学校支援課で活躍（東京都杉並区）

社会教育主事が学校支援課に置かれ、地域と学校をつなぐ総合的なコーディネーターの役割を担っている。社会教育主事は地域全体を見ながら各学校区で活動している地域の方のサポート・情報提供をしている。社会教育主事を活動のコアとして進めている事例である。

○学校支援ボランティアを基盤として活動（東京都小平市）

学校選択制を導入せず、地域住民に地域で学校を支えるという意識をもってもらうため、学校支援ボランティアの普及に注力した。それが現在のコミュニティスクールの基盤となり、学校支援ボランティアが地域学校協働活動における重要な役割を担っている。

○「地域連携教員」の制度化（栃木県）

社会教育主事の有資格者が地域と学校の橋渡しを行う。校務分掌で位置付けられる役職であり、地域学校協働活動の推進に注力できる体制となっている。

○地域側、学校側の双方にコーディネーターが存在し、コーディネーター同士が連携して地域と学校の橋渡しを行っている姿が理想である。

(2) 岐阜県の生涯学習・社会教育振興施策について（県担当者）

○地域学校協働活動について

○地域づくり型生涯学習について



▲会場の様子



▲Zoomを活用した基調講演



▲質疑応答



▲県の施策説明

4 出席者

県関係者（主催者除く）	会場 5名	オンライン 1名	
市町村職員・社会教育委員	会場37名（15市町）	オンライン35名（11市町村）	
各種団体関係者	会場 8名	オンライン26名	
計	会場50名	オンライン62名	全体112名

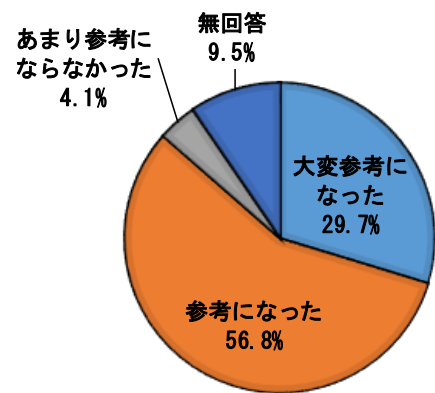
※各種団体関係者内訳

民間企業：1名（1団体）、大学：4名（2大学）、公民館・生涯学習施設職員：14名（14団体）、地域団体、NPO・ボランティア団体、その他団体：11名（10団体）、岐阜県生涯学習コーディネーター2名：岐阜県コミュニティ診断士：2名

5 出席者アンケート結果 ※回答数：74人、回答率：66.1%

【質問1】会議全体について、内容はどうでしたか？

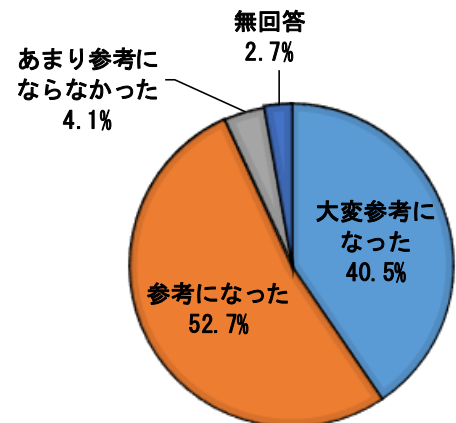
A 大変参考になった	22人(29.7%)
B 参考になった	42人(56.8%)
C あまり参考にならなかった	3人(4.1%)
D 参考にならなかった	0人(0.0%)
無回答	7人(9.5%)



【質問2】個々のプログラムについて、内容はどうでしたか？

(1) 基調講演

A 大変参考になった	30人(40.5%)
B 参考になった	39人(52.7%)
C あまり参考にならなかった	3人(4.1%)
D 参考にならなかった	0人(0.0%)
無回答	2人(2.7%)



【理由・感想等】

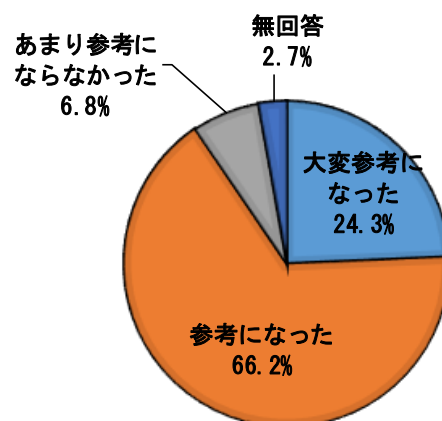
- 地域学校協働活動の考え方や組織の作り方、進め方について、シンプルで非常にわかりやすく、ヒントになるものが多くあった。
- 地域学校協働活動の意義について、大変わかりやすく説明いただき、理解が深まった。
- 話がわかりやすく、地域学校協働活動について、改めて確認するという意味で参考になった。
- 講演のテンポ、滑舌もよく、とても聞きやすく良かった。
- わかりやすい言葉、聞き取りやすい声であった。
- 地域学校協働活動について、改めて考えを整理することができた。学校も地域も互いの意識を変えていかななくてはならないと感じる。

- それぞれの強みを生かした地域人材、組織を活用した時、地域学校協働活動は決して難しいものではないことがわかった。
- 地域・学校・家庭と行政が相互に協力し高め合い、地域に沿った方法を見つけていく必要があると感じた。
- 地域に人材はいて、自分が頑張っていることを伝え一緒に頑張っていける機会を作るコーディネーター的存在が必要だと感じた。
- 学校・地域の相互メリット、win-win の関係が構築できるような視点をもって実践していくのが良いとわかった。
- 非認知能力を養うには、学校教育だけでは難しいことに大変納得した。「子どもは学校だけでは育たない」と明言され、自分達の活動の意味付けがされた。
- 体験を通して非認知能力が大きく育つことがよくわかり、大人も自己有用感をもつことが必要だということに共感した。
- 個性を生かしながら社会とのつながりをもてるような「求められる世界」に進むことができるよう、コロナ禍でもできること、コロナ後にもつなげられることを考えていきたいと思った。
- 子どもも巻き込むことよっての地域社会づくりが、大人・子どもにとってお互いの成長に良いことがとてもよく理解できた。
- 具体的な事例があったことで、「自分達ならこのような方法でできる」等、イメージがもててありがたかった。
- 今あるものを使って生かすことから始めれば負担もなく、子どもにも学校にも地域にもプラスになっていくので、それらのポイントを見出していくことが必要だと思った。
- 敷居が高いと思われがちな学校であるが、昨今学校内部だけでは解決できない問題・課題もあると思う。地域と手を取り合って地域の教育力を高めていきたいと感じた。
- 学校と地域の橋渡し役をどうしているかについての各地の事例が参考になった。
- 「学校を核とした」ではなく「子どもを核とした」地域づくりと捉えることで、教員への負担感が和らぐことがわかった。
- 「子どもは学校だけでは育たない」「体験で育つ資質・能力」ということについて、市町村の会議でも紹介して意識化を図りたいと思った。
- 子どもにも大人や地域に対して教育力がある（天性の教育力を子どもももっている）という話が心に残った。
- 子どもから学ぶこともあるということに共感した。時代は常に流れていて、新しいことも生まれている。吸収の速い子どもの活躍する場を増やして、地域でも学校でも輝いてもらいたい。
- 今回の講演で学校視点での動向がわかった。自身は地域からのアプローチを行う立場なので、学校側とwin-win の関係で上手く連携できればと思う。
- 社会福祉協議会でも、地域共生社会に向けた福祉教育の展開を始めようとしている。誰もが住みやすい地域づくりのために、「行政は行政、社協は社協」ではなく、ともに地域に開かれた福祉教育の推進を展開していけたらと感じた。
- 老夫婦のみの世帯だと学校からの情報があまり入らず、子育て世代が進めて行く活動であると感じていた。学校が開かれることと、そこに地域住民が顔を出すことで協働の一步が始まると感じた。
- 「これをやってみたい！」と思える話だった。
- オンラインを利用した講演だったが、画面が大きく、声も聞きやすかった。
- 事例をもう少し出してもらえるとよかった。
- 成功例や失敗例があればよかった。
- ケースバイケースで地域による事情が異なるので、問題点ごとに整理して示していただけると参考になる。
- 地域ごとに状況が異なるため、全体会では理解が届かない部分があった。

- 社会教育主事にしても学校側で役割を担う人材にしても、見つけることが難しい。
- イベント型の事例が中心に紹介されていたが、イベントありきのまちづくりには限界があると思う。日々の生活をいかに協働し成立させていくか、その取組を大切にしていきたい。

(2) 県からの説明

A 大変参考になった	18人 (24.3%)
B 参考になった	49人 (66.2%)
C あまり参考にならなかった	5人 (6.8%)
D 参考にならなかった	0人 (0.0%)
無回答	2人 (2.7%)



【理由・感想等】

- 県内の動向がわかった。今後、連携できることがあればお願いしたい。
- 県が生涯学習を進めていくために大切にしている施策の柱がわかった。
- 県がこのような事業をやっているとは知らなかったので、地域に帰り活用を相談しようと思う。
- 説明がよくわかった。自身の市町村でも現在、公民館活動や社会教育活動として取り組んでいる。さらに頑張って地域のつながりを深めていきたいと考える。
- 生涯学習推進の立場で、地域学校協働活動をどう捉え進めて行けば良いのか方向性が理解できた。
- 地域づくりを学校教育と組み合わせ、学校側の立場・見方と併せて参考にしていきたい。
- 生涯学習について色々な形でその地域に合わせた内容で進めていくことが大切だと感じた。
- 「地域づくり型生涯学習」の内容が端的で大変わかりやすかった。
- 「地域づくり型生涯学習」の説明があり、大変参考になった。自身も5年前から既にこのような活動をしており、さらに県の支援を求めたい。
- 「地域づくり型生涯学習講座コーディネーター事業」の紹介が興味深かった。何かに生かせればと思う。
- 「地域づくり型生涯学習講座コーディネーター事業」は機会があれば利用したい。
- 実際に活動・イベントを行おうと考えた時に、このような実践例紹介や講座を行ってもらえることが理解できたので、今後活用したいと思った。
- 「地域づくり型生涯学習」の説明も実践例もあり、まちづくり活動や地域学校協働活動の参考になった。
- 「地域づくり型生涯学習」の実践例が特に参考になった。地域の中にある様々な人材の力を集めてどのようなことができるのか知ることができた。地域の間関係が希薄になる中で、顔が見える関係づくりをどう進めていけば良いか参考になった。
- 岐阜市日野南における活動はとても魅力的だった。若いお父さん世代が地域のために動くことで、上の年代に対しても下の年代に対してもつながりやすい可能性があると思った。何より、地域のために楽しそうに頑張っている姿を見て応援してくれる人（力になってくれる人）がいることがうれしく思えた。活動をする上で苦労した点を詳しく教えてもらえると良かった。生涯学習、何歳になっても得意なこと・得意になりたいことで楽しく地域のために貢献できる機会と場所が増えていくことを望んでいる。
- 「地域づくり型生涯学習」という言葉からは内容がわかりにくい、岐阜市日野南地区の事例を紹介してもらい理解できた。
- 地元のつながりがコロナの影響で無くなっていく中で岐阜市日野南の取組はすばらしいと思った。
- 地域づくり活動グループの実践活動は、学校・児童・生徒が参加して行うことで地域が一体となり、子ども達の地域デビューの機会となっており参考になった。
- 一父親として、岐阜市日野南の活動に感動した。自分もできることを考え行動に移したいと思う。

- 岐阜市日野南の事例が興味深かった。高校への出前講座の話も、高校生がどんな学びや実践をしたのか、もう少し聞きたかった。色々な地域に自分達が知らない事例がたくさんあり、そういった事例を今後知る機会があれば、自分達の現状を打開するヒントも得られると思った。
- コロナ禍でも実践することがあれば行う必要があり、社会・コミュニティを形成する上でとても大切だと思った。今後も「できる範囲で」行いたいと思った。
- 実践例についてさらに詳しく話してもらえるとありがたい。
- もう少し具体的な事例の紹介が欲しかった。
- 「地域づくり型生涯学習」の実践例は従来の実践とあまり変化がない。地域学校協働活動という視点からの実践例が欲しかった。
- 先進取組事例をもっと詳しく説明してほしい。説明が簡単であったが、今後県として力を入れていく事業なのではないか。「地域おこし×生涯学習」であるなら、まちづくり担当部署や地域おこし協力隊、NPO等も参集して、専門に講演会や研究会をした方が良いと思う。
- 「地域づくり型生涯学習」という言葉・活動は「社会教育の推進」「地域学校協働活動」であるということが良いのか。県がコーディネーターとして各種団体に支援をして推進のリードをしていくと捉えて良いのか。「学校運営協議会」「地域学校協働活動」「地域づくり型生涯学習」と、意図はわかるが混乱の原因になると心配する。
- 地域の少子高齢化で活動できる人材が不足していく一方であることを思うと、今後はどうしていくことが良いのか等、色々なことを感じた。
- 地域学校協働活動を進める中心は行政ではどこが担うものなのか。子どもを中心とした時、学校教育が核ではないとする場合、教育委員会ではない。生涯学習につながる地域づくりと捉えて良いのか、考え中である。

【質問3】今後の会議のテーマや内容、講師、開催時期等の要望

- Zoomでの研修参加ができ、大変ありがたかった。（用事があったため、Zoomでなければ参加できなかった。）
- Zoom参加において、事前に資料送付もあり、当日のパワーポイント資料で再確認して学習できた。丁寧な準備がありがたかった。
- Zoomでの参加において、事前に資料に目が通せたので、基調講演や県の説明もわかった。
- 遠方からの参加は時間がかかるため、今後もオンライン参加できるようにしてもらえるとありがたい。
- Zoomでの参加は、感染症対策にも移動時間の短縮にもつながり、今後も参加しやすい方法であると感じた。
- 年1回は県下で活動している団体の報告会を開催されたい。
- 自分達が取り組んでの課題や成果について、講師に直接質問したり評価してもらえたりするような機会があればと思う。
- 活動者の生の声が聞きたい。
- 各地域の子ども会活動を「地域づくり型生涯学習」につなげることはできないか、その方法等。
- 三世代交流がうまく効果を上げている事例等。
- 具体的な実践例の、どのような過程で行いどのような変容（子どもや地域）があったのか、詳細まで踏み込んで聞かせてもらいたい。
- 学校側へのアプローチの仕方を相談したい。
- 一般的な話であった。現在進行している事例や問題点、課題等があるものを聞きたい。
- 目的別リモート研修会、ステージ別リモート研修会。
- 講演のような単方向のものはライブ配信またはDVD等で視聴。双方向のものはその別とする。